

(別紙6)

富山県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

富山県における認定鳥獣捕獲等事業者の認定件数は0件であり、認定鳥獣捕獲等事業者と同等以上と認められるものとして、一般社団法人富山県猟友会に委託して指定管理鳥獣捕獲等事業を行っている。また、平成以前はイノシシ・ニホンジカともに生息が確認されていなかったこともあり、猟友会の中でもイノシシ・ニホンジカの捕獲技術を持つものは多くなかった。

そのような中、認定を目指す法人の捕獲従事者に対し、H28年度からOJT方式による効率的捕獲の手法や地域に普及していない新技術等の捕獲研修を行っており、令和3年度までに45名が研修を修了している。

現在、その研修生と地元のベテランハンターとの合同チームである、富山県捕獲専門チームにより指定管理鳥獣捕獲等事業に取り組んでいるが、指定管理鳥獣の捕獲技術や手法を県下全体の狩猟者に普及できるようにしていく必要がある。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

各捕獲専門チームの隊員に対し、主に各チームの捕獲の現場において、基本的にシーズン初め(6月頃)、シーズン最盛期前(8月頃)の2回に分けて、わな捕獲技術等に関する研修を実施(計12回、延べ約130名参加)。

また、各捕獲専門チームの隊員のほか、チーム参加を検討している猟友会員も対象とした意見交換会を巻き狩り開始前の12月頃に実施し、わな捕獲の振り返りと併せて、巻き狩りについての説明を実施した(計7回、87名参加)。

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

今年度より意見交換会の参加対象を、チーム参加を検討している猟友会員も対象とした。今後さらに参加者を拡大させることで、捕獲専門チーム員を増やし、狩猟者全体の技術向上、さらには認定鳥獣捕獲等事業者の育成につなげたい。

課題として、チームによって技術力の差があり、チームによって捕獲数にばらつきが生じている。今後は、捕獲数の少ないチームが技術力の高いチームの現場に行き、わな設置場所の選定方法などを学ぶ機会を設けることとしている。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。